



## 保護者のみなさんのための プライバシーに関する概要

Appleは、プライバシーは基本的人権であると信じています。ですから、教育向けのアプリケーションやサービスも含めた、すべてのApple製品に最初から、プライバシーと安全を組み込んでいます。Appleがデータを使用するのは教育目的だけに限られるので、学校は安心してApple School Managerで生徒用のアカウント、デバイス、アプリケーションを設定することができます。ここでは、教育機関で使われるApple製品と、内蔵されているプライバシー保護の概要をご説明します。



### 教育機関におけるApple

Appleは、教育機関で使うことを想定したパワフルなツールを設計し、IT管理者のみなさんがデバイスを導入する際や、教師のみなさんが授業を進めるのを助け、すべての生徒が自分に最適な方法で学ぶことができる環境を可能にしています。

#### デバイスとコンテンツの管理

Apple School ManagerはIT管理者のための無料のウェブベースのサービスで、学校へのiPadやMacの導入、生徒と教職員のための管理対象Apple IDアカウントの作成、クラスルームアプリケーションとスクールワークアプリケーション用のクラス名簿の設定、学習と指導のためのアプリケーションとブックの管理をサポートします。

権限を付与された場合には教職員もApple School Managerを使ってパスワードをリセットしたり、管理対象Apple IDアカウントを監査することができます。Apple School Managerはこのようなアクティビティを記録しています。

#### 指導

スクールワークアプリケーションでは、教師が教材を生徒に共有し、各生徒の進み具合を確認して、即座にフィードバックをすることができるので、生徒一人ひとりに合わせた指導が可能になります。スクールワークアプリケーションの生徒の進捗をレポートする機能を学校側がApple School Managerから有効にしている場合でも、共有されるのは具体的にその時教師が生徒に課題として設定したアクティビティについての進捗データであり、さらに生徒が管理対象Apple IDを使っている場合にに限られます。保護者のみなさんがお子様の進み具合を確認するには、iPadでスクールワークを開くか、iPadの「設定」から確認することができます。

クラスルームアプリケーションを使用すると、教師は授業中の生徒のiPadを管理し、指導に役立てることができます。クラスルームがデバイスを管理するのは、生徒たちが授業に出席している間のみです。クラスルームアプリケーションは、授業終了後は、データを保存したりデバイスをコントロールすることはできません。

教育に関するApple製品についての詳細は、[apple.com/jp/education/](https://apple.com/jp/education/)を参照してください。



### 生徒のプライバシー保護

Appleのプライバシーに対する統合的なアプローチは、Appleのハードウェア、ソフトウェア、サービスすべての設計の基礎となっています。Appleの教育のためのサービスとアプリケーションもこの同じアプローチに基づいて開発されています。

Appleが生徒の情報を販売したり、マーケティングや広告に使用するために第三者と共有したりすることは決してありません。また、オンラインでの行動に基づいて生徒のプロファイルを構築したり、関連する教育向けサービスの提供以外の目的で生徒の情報を収集、使用、開示したりすることもありません。

Appleは、管理対象Apple IDと呼ばれる、学校での利用を目的に設計されたアカウントを提供します。管理対象Apple IDは、学校が作成、所有、管理するもので、生徒はiCloud Drive、iCloudフォトライブラリ、バックアップ、スクールワーク、共有iPadにアクセスすることができます。また、自宅で使うためのパスワードを学校が発行すれば、生徒は自宅で個人所有のiPadやMacで自分のアカウントにサインインし、課題にアクセスすることができます。管理対象Apple IDは、広告、購入、通信の制限を含め、生徒のプライバシーを保護するように設計されています。教材とアプリケーションは学校から配布され、App Store、Appleブックストア、iTunes、Apple Musicでの購入はできません。iMessageやFaceTime、生徒の進捗を報告するスクールワークアプリケーションの機能といったサービスについては、有効にするか無効にするかを学校が決定できます。

#### 生徒のプライバシーに関する法律の遵守

Appleの教育向け機能とサービスを使用する際、学校は米国のCOPPA（児童オンラインプライバシー保護法）やFERPA（家庭教育の権利とプライバシーに関する法）、EUのGDPR（一般データ保護規則）、およびApple School Managerを利用できる地域で適用されるプライバシー関連の法令を遵守しなければなりません。

教育向けApple製品のプライバシーとセキュリティについての詳細は、[support.apple.com/ja-jp/HT208525](https://support.apple.com/ja-jp/HT208525)を参照してください。



## iPadおよびMacを使った学び

テクノロジーを活用した学習は、ただ文書をタイプしたりインターネットを使ったりするだけのものではありません。iPadとMacには、すべての生徒が自分らしく表現し、問題を解決し、自分が誇らしく思える学びに取り組むための様々なツールが用意されています。Appleは、一人ひとりが持つ創造力の可能性を念頭に置いて製品を作っているため、子どもたちは、聞く、見る、触る、作ることを通じて学ぶことができます。

### 生産性と創造性のためのパワフルなアプリケーション

**Pages, Numbers, Keynote**は、生徒や教師のみなさんが美しいレポートやデジタルブック、洞察に溢れたスプレッドシート、目を見張るようなプレゼンテーションを作成するのに最適なアプリケーションです。

**GarageBand, iMovie, Clips**を使うと、生徒と教師のみなさんは音楽を作ったり、ドキュメンタリー映画を編集したり、短いビデオクリップを撮影することができます。

**Swift Playgrounds**は、Appleのパワフルなプログラミング言語であるSwiftを楽しくインタラクティブに学び始めることができるアプリケーションです。

これらの無料アプリケーションで、生徒たちは学びに必要なすべてのツールを手にし、クリエイティブなアイデアを自分らしい方法で表現することができます。iMovieで学期末のレポートをドキュメンタリー映画に仕立てることも、GarageBandで詩に音楽をつけることも、Pagesで共同作業をして、学校新聞を写真やイラストの載ったインタラクティブなデジタルブックに変えることもできます。

### 子どもたちの学びを支援

iPad, Mac, 内蔵アプリケーションについての詳細、および学校での活用事例については、[apple.com/jp/education/](https://apple.com/jp/education/)をご覧ください。

親子一緒に楽しいプロジェクトを作ってみませんか。iMovieで家族イベントをまとめたり、家族写真のスライドショー用にGarageBandでサウンドトラックをつけたり、最近行った旅行をKeynoteでプレゼンテーションにまとめてみましょう。ちょっとしたプロジェクトと一緒に取り組むことで、保護者のみなさんも子どもたちも、こうしたツールでどんなことができるのかを実感し、未来の新しいアイデアへのきっかけが生まれます。

AppleのEveryone Can Createでは、子どもたちと一緒に始められる教材をご用意しています。[www.apple.com/jp/education/everyone-can-create/](https://www.apple.com/jp/education/everyone-can-create/)からさらに詳しく。

### お子様が良きデジタル市民となる手助けをします

生徒がオンライン上で、安全で賢明、かつ倫理的な判断ができるようにサポートし、学校や保護者のみなさんのガイドとなる様々なリソースが用意されています。たとえば、[www.commonssensemedia.org](https://www.commonssensemedia.org) (英語)にはファミリー向けの様々なガイドが掲載されています。

Apple Storeでは、保護者のみなさんが参加できる無料のセッションをご用意し、デバイス上での子どもたちの視聴や行動を管理するiOSの機能について説明しています。ご参加いただける様々なトピックに関するセッションについては、[www.apple.com/jp/today/](https://www.apple.com/jp/today/)を参照してください。



## iPadとMacの設定

MDM (モバイルデバイス管理) ソフトウェアを使用すると、学校はネットワークアクセスや安全なウェブコンテンツ、ソフトウェアアップデートなどの設定やポリシーを構成して、最高の学習体験のためにデバイスを設定することができます。MDMでは、生徒の学習用アプリケーションとブックを配布することもできます。

学校が配布するデバイスでは、通常、管理設定を削除することはできません。生徒が個人所有のデバイスを学校に持って行く場合は、学校の管理ソフトウェアでデバイス登録を行った場合にのみ、管理対象になります。MDMの設定はあとからいつでも削除することができます。

学校で許可される使い方、Eメールやメッセージ、コンテンツやアプリケーションへのアクセスなど、テクノロジーに関する学校のポリシーを保護者のみなさんや生徒自身で確認しましょう。

### アプリケーション

iPadとMacは、Pages, Numbers, Keynote, iMovie, GarageBandというAppleのパワフルなアプリケーションを搭載しています。学校が配布するデバイスでは、どの学習アプリケーションを追加するかは学校が選択し、それ以外のアプリケーションを生徒がダウンロードできないように学校が設定することができます。

iPadの「設定」アプリケーションでは、インストール済みアプリケーションの一覧を表示できます。App Storeの教育カテゴリには、Appleの教育担当部門が厳選した最高の教育向けアプリケーションが揃っています。iPadのApp Storeから探してみましょう。

### 機能制限

個人所有のデバイスでは、保護者のみなさんは「設定」アプリケーションのペアレンタルコントロールを利用して、特定のアプリケーションや機能を子どものデバイス上でブロック、または制限することができます。たとえば、年齢に応じて映画や音楽のコンテンツを制限したり、特定のアプリケーションやウェブページをブロックしたり、子どもの位置情報のようなプライバシーに関わるデータの共有を制限したりできます。子どもたちがデバイスでできることを保護者のみなさんが選べるように、Appleが提供しているツールについては[www.apple.com/jp/families/](https://www.apple.com/jp/families/)からさらに詳しく。